

【 杵 築 市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

市の平均正答率は63%であり（県：66% 全国：64.7%）、やや県や全国を下回った。

- ① ■「話すこと・聞くこと」領域の「資料を用いた目的を理解する」に課題がある。（市：68.0% 県：73.0% 全国：74.9%）
- ② ■「読むこと」の領域では、「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること（思考・判断・表現）」に課題がある。（市：27.6% 県：33.8% 全国：34.4%）
- ③ ■「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う（知識及び技能）」ことに課題がある。（市：49.1% 県：51.3% 全国：54.4%）
- ④ □「書くこと」の領域では、「目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する（思考・判断・表現）」ことに関しては定着が見られる。（市：65.4% 県：64.7% 全国：56.6%）
- ⑤ □14問中11問で、無解答率が全国より低かった。また、そのうち無回答率0%が5問あり、自分なりの考えを持って書いている児童が多かった。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- ① 調べたことをまとめて発表する際は、誰に何を報告するのか対象者や内容を明確にした上で、取り上げた資料の意図やねらいも含めて説明できるように指導する。
- ② 教材文等を用いた学習の中で、多くの情報から必要な情報を選択したり文章と図表を適切に関連付けたりする指導を行う。また、事実と考えとを区別して読解したり、図表の効果を吟味したりする活動を仕組む。さらに、書く活動においても、自分の考えを支えるものとしてふさわしい資料や事例を取り上げて書く習慣を育成するようにする。
- ③ 漢字のもつ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付ける。その為に、国語辞典や漢字辞典を活用して意味を調べたり同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れる。また、タブレット等で既習の漢字の習得を図っていく。言語能力の育成は必須であり、読書活動の推進も図る。
- ④ 国語科での言語活動において、書く活動を取り入れ自分の考えを表現させる学習を積み重ねてきたことが「書くこと」の成果につながっている。目的に応じて、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかを考えさせることが重要である。
- ⑤ 児童が最後まで目的を見失わずに言語活動を遂行できるような授業づくりを心がけてきた。今後も、単元全体を見通した子どもの意欲につながる「めあて」や学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」を位置付けた授業を重ねていきたい。

【 杵 築 市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

市の平均正答率は68%であり（県：70% 全国：70.2%）、やや県や全国を下回った。

- ① ■「変化と関係」の領域で「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる（思考・判断・表現）」に課題がある。（市：83.3% 県：85.8% 全国：86.7%）
- ② ■「変化と関係」の領域で、「速さを求める除法の式と商の意味を理解している（知識・技能）」に課題がある。（市：51.3% 県：53.7% 全国：55.8%）
- ③ ■「測定」の領域で「条件に合う時刻を求めることができる（知識・技能）」に課題がある。（市：85.1% 県：89.8% 全国：89.2%）
- ④ ■「図形」の領域で「構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる（思考・判断・表現）」に課題がある。（市：41.2% 県：46.2% 全国：46%）
- ⑤ ■「数と計算」の領域で「商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる（知識・技能）」に課題がある。（市：51.3% 県：55.6% 全国：55.%）
- ⑥ □「図形」の領域で「三角形の面積の求め方について理解している（知識・技能）」は全国平均を上回っている。（市：55.7% 県：53.7% 全国：55.1%）
- ⑦ □「データの活用」の領域は、概ね良好であり「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる（知識・技能）」は全国平均を上回っている。（市：91.2% 県：90.6% 全国：90.7%）
- ⑧ □16問中12問で、無解答率が全国より低かった。また、そのうち無回答率0%が3問あり、自分なりの考えを持って書いている児童が多かった。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- ① 図形の性質や構成要素に着目して、複合図形を構成する力が不足していると考えられる。具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにするための操作活動を取り入れ、定着を図る。
- ② 三角形などの図形の求積はよく理解できている。半面、図形の構成についての見方・考え方をはたらかせ、数の意味や公式の意味などを図形と関連付けて説明することができていないと考えられる。図を基に式や図に表したり、図と関連付けて式を解釈したりする活動を様々な場面で取り入れ、説明する活動を設定する。
- ③ 「速さ」の概念の理解がやや不十分だと考えられる。時間や道のりとの相関関係を、日常生活の場面に置き換えたり、タブレット等活用したりして児童がイメージできるような指導を行う。
- ④ 「500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を求める」等、導いた解答を適応したり、活用したりすることに課題があると考えられる。日常の授業においても、振り返りの際に、類似の問題に取り組みせたり、問題を児童に作らせたりして強化していく。
- ⑤ 「数と計算」においては、「8人に4Lのジュースを分ける」等、商が1より小さくなる「等分除」問題で、安易に $8 \div 4$ とする傾向があり、場面から数量の関係を捉えて立式することに課題がある。図や言葉を使ってどのような場面か題意を把握した上で立式するように指導する。
- ⑥ 「測定」の時刻の問題は2年生の問題であるにも関わらず、正答率85%であった。15%の児童が理解していないと考えられる。個別のフォローアップで対応していく。
- ⑦ 「データの活用」は前回の改善方策「複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断できない事からについて判断するためのグループでの話し合い活動」が効果があったと思われる。今後も継続して取り組むことでレベルアップを図っていく。

【 杵 築 市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

【問題形式から】全14問（選択式6問・短答式4問・記述式4問），市平均正答率62%で，県(-4.0)全国(-2.6)であった。前回，短答式は全国が56.8%であるのに対して49.3%と7.5%低くなっていたが，今回は，72.4%と差は2%と改善がみられた。一方，記述式の正答率は52.9%であり，県(-4.3)全国(-3.1)に比べて下回っている。また，短答式も61.1%で，県(-4.9)全国(-3.8)と差が開いた。条件をもとに作文したり，自分の考えを述べたりする記述式や，類似の選択肢から適切に取捨選択する問題で差が開いたと思われる。

【領域から】

全領域で県平均，全国平均を上回ることができなかった。特に「読むこと」領域においては，市43.3%で，県(-5.8)全国(-5.2)と顕著である。また，「書くこと」領域においても，53.5%で，県(-4.6)全国(-3.6)と課題が残った。全国平均ほぼ同レベルであった領域は「話すこと・聞くこと」であり，市79.0%で県(-3.1)全国(-0.8)であった。「伝統的な言語文化」においては，前回の改善方策の効果が見られ，72.7%で，県(-2.8)全国(-2.4)と前回の調査よりやや改善が見られた。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- 「読むこと」領域において，今後重点を置いて指導すべきことは「文脈の中における語句の意味を理解すること」「場面の展開，登場人物の心情や行動に注意して読み，内容を理解すること」「文章に表れているものの見方や考え方を捉え，自分の考えをもつこと」が挙げられる。
- 文章の全体像をつかむことが重要である。今回，題材が『吾輩は猫である』でやや文語調で文脈をつかむのが難しかったと思われる。名作に触れる読書活動を習慣づけたり，注釈を手掛かりに全体像をイメージしてから読んだりするスキルも身に着けさせる必要がある。
- 「文脈の中における語句の意味を理解すること」を育成するためには，普段の授業から，語彙力を高めていくようにすることと，その語句に代替する語句を探させたり，穴埋め方式にして適切な語句を考えさせたりする指導も有効である。
- 「書くこと」領域においては，文章を構成する力を指導していく必要がある。これは「文章の全体像をつかむ」読解にも繋がる。その為に，作文指導において，段落構成を考え，見通しを立てて書かせたり，書いた文章を互いに読み合わせたりして，文章の構成の工夫を考える活動に取り組みせる必要がある。さらに，試行錯誤が容易にできることから，タブレットの活用も有効だと考える。
- 作文指導は，一朝一夕にはいかない面もあり，小学校と連携して系統的な指導をする必要もあると考えられる。

【 杵 築 市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

中学校：数学

全問題数は16問（選択式2問・短答式9問・記述式5問）であり、平均正答率55%、県（-2.0）全国（-2.2）とやや下回った。

- ・全国、県と比較して正答率が上回る。→4問
- ・全国と比較して正答率が上回る。→0問
- ・県と比較して正答率が上回る。→0問
- ・全国、県と比較して正答率が下回る。→12問

◆領域別では、「資料の活用」の正答率で、県・全国平均を上回る。

◆観点別では、「数学的な技能」の正答率で、全国平均と同等。

「数学的な見方や考え方」の正答率で、県平均と同等、全国平均を上回る。

◆問題形式別では、「選択式」53.1%で、全国平均を上回る。

その他「記述式」「短答式」は県平均、全国平均を下回る。

◇無解答率が県・全国と比較して多い。10問で県・全国を上回る。

特に課題のある問題（領域：問題形式）〔全国平均と比較〕

市平均正答率が特に低い問題

・四角形ABCDが平行四辺形になることを平行四辺形になるための条件を用いて説明する設問。

（図形：記述式）〔-14.2P〕

・中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ設問。（図形：選択式）〔-5.9P〕

「図形」領域が課題である。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

○「数量や図形などについての知識・理解」に関する問題においては、数学用語や重要事項、公式の意味と理解を深められる指導、またはそれらを想起する場面を増やすような指導をする。特に、角度と扇形の弧の関係等、基礎的な知識理解を深めるようにする。

○9(1)「平行四辺形になるための条件を用いて説明する設問」では、正答率30.1%と、全国と比べ14ポイント下回った。証明の根拠として用いられている三角形の合同条件や、平行四辺形の特徴の理解を深めるために、具体物の操作活動を取り入れたり、タブレット等ICTを活用したりする学習が有効だと考えられる。なお、説明の仕方を選択する問題でもあった為、多様な考えを交流する学習場面も必要であろう。

○9(3)「 $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでも言えることを書く設問」でも、正答率が全国と比べ5.6ポイント下回った。「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する」趣旨から、数学的な見方考え方を働かせる必要がある。その為には、異なる視点から図形を分析する習慣を身につけるために、ペアやグループ学習を通して異なる視点を発見させるよう仕組むことも考えられる。

○「数と式」6(3)「四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であることを説明する」設問も、全国に比べ4.5ポイント低かった。数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるようにしたい。その為には、説明内容(事実・方法・理由)を区別できるようにし、説明の基本形を活用できるように指導したり、授業で、生徒が説明したり教え合ったりする場面を設定し、論理的な説明の組み立てに慣れさせたりする。

○前回課題であったヒストグラムの読み取り等「資料の活用」は、取り組みの成果が表れ、県平均、全国平均を上回った。引き続き、指導を強化・維持していきたい。

【 杵 築 市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

※数値は「そのとおりだと思う・どちらかといえば、そう思う」等の肯定的回答の集計（％）（ ）は全国の数値

<生徒指導に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	100 (88.5)
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	100 (85.3)
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全体で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	100 (94.6)
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で児童一人一人の良い点や可能性を見つけ評価する（褒める）などの取組をおこないましたか	100 (98.7)

<学校運営に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100 (94.2)
言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか	100 (95.6)

<教職員の資質能力の向上に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	100 (98.5)
授業研究や事例研究など、実践的な研修をおこなっていますか	100 (98.1)
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか	100 (87.4)

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	100 (85.5)
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を計画的に取り入れましたか	100 (73.1)

<小学校教育と中学校教育の連携に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
平成31年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	60.0 (48.1)

<家庭や地域との連携等>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	100 (95.7)

<家庭学習>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（教科共通）	90.0 (90.6)
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか（教科共通）	90.0 (89.4)

中学校：学校質問紙

※数値は「そのとおりだと思う・どちらかといえば、そう思う」等の肯定的回答の集計（％）（ ）は全国の数値

<生徒指導に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	100 (96.0)
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	100 (97.9)
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	100 (92.7)
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ評価する（褒める）などの取組をおこないましたか	100 (98.6)

<学校運営に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	100 (90.6)
言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。	100 (94.3)

<教職員の資質能力の向上に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	100 (97.2)
授業研究や事例研究など、実践的な研修をおこなっていますか	100 (93.9)
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか	100 (79.1)

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	100 (86.0)
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を計画的に取り入れましたか	100 (67.6)

<小学校教育と中学校教育の連携>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
平成31年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	66.7 (48.5)

<家庭や地域との連携等>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	66.7 (85.3)

<家庭学習>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（教科共通）	100 (85.5)
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（教科共通）	100 (91.9)

2 杵築市の学校質問紙調査の結果をふまえて

(小学校・中学校共通)

- 市内小中学校においては、概ね落ち着いた生活を送ることができている。また、挑戦心や達成感を味わうことができる取組、自己存在感を感じることができる取組も図られている。引き続き、児童生徒が安心して学習や生活を行うことができる組織的な校内体制づくりに取り組む。
- 校長のリーダーシップの下、目標達成に向けて組織的に取り組む学校運営体制が確立されてきているとともに、教職員の資質能力の向上を図る取組が組織的に継続して行われている。
- 「新大分スタンダード」に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善が推進されている。
- 小学校と中学校の連携については、今後、近隣の小中学校で、各種学力調査等の成果と課題の共有を行うとともに、学校公開日等を活用しながら連携を深めていく取組を進める必要がある。
- 家庭学習については、学校と家庭が連携し、児童生徒の主体的な家庭学習の充実を図る取組が進められているものの、本市が目指す自立した学習者の育成に向けた教職員の共通理解については不十分な面も見られる。今後、家庭学習についての指導が効果的に進められるよう、学年段階に応じた家庭学習の課題等について、共通理解をより一層図っていく。
- ◇日々の授業において、「新大分スタンダード」を意識した単元構想による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて引き続き授業改善を推進する。
- ◇本時で具体的な評価基準を設定し、努力を要する状況の児童生徒への具体的な手立てを講じた授業を推進する。

【 杵 築 市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

<基本的な生活習慣等>

- 「朝食を毎日食べているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は94.3%であり、県・全国とほぼ同じ。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は83.8%であり、県・全国よりもやや高い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は89.4%であり、県・全国より少し低い。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は68.4%と県・全国を比べると少し低い。

<挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等>

- 「自分には、よいところがあるか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、75.9%であり、県・全国とほぼ同じ。
- 「将来の夢や目標を持っているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、82.9%であり、県・全国と比べて高い。
- 「人が困っているときには、進んで助けるか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、91.3%で県・全国と比べて高い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、96.5%であり、県・全国と比べて少し低い。

<学習習慣等>

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、74.5%であり、全国よりも高いが、県と比べると低い。
- 月曜日から金曜日に「1日に1時間以上勉強する」と回答した割合が、67.6%であり、県・全国と比べて高い。
- 月曜日から金曜日に「1日に30分以上読書をする」と回答した割合が、50.0%であり、県と比べると低い、全国と比べると10ポイント以上高い。「全くしない」と回答した割合は、16.2%であり、県・全国と比べて低い。
- 「新聞を読んでいるか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、10.9%であり、県よりも少し高いが、全国と比べると低い。

＜ICT を活用した学習状況＞

- 「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか」という質問に対して「週1回以上」と回答した割合は、29.3%であり、県・全国よりも低い。
- 「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」という質問に対して、肯定的な回答の割合は、94.8%であり、県・全国とほぼ同じ。

＜地域や社会に関わる活動の状況等＞

- 「今住んでいる地域の行事に参加しているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は63.6%であり、県・全国と比べると高い。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」の質問に対して肯定的な回答の割合は51.3%であり、県・全国と比べると低い。

＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況＞

- 「学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えたか」という質問に対して肯定的な回答の割合は、82.9%であり、県・全国と比べて高い。
- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」という質問に対して肯定的な回答の割合は、80.7%であり、県・全国と比べて高い。

＜学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）＞

- 「国語の勉強は好きか」との質問に肯定的な回答の割合は、64.9%であり、県・全国と比べて高い。「国語の勉強は大切である」と肯定的な回答の割合は94.7%、「国語の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答の割合は87.8%で、どちらも県・全国と比べるとほぼ同じか高い。
- 「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしているか」の質問に対して肯定的な回答の割合が83.7%で、全国と比べると高いが、県よりは少し低い。
- 「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり、自分の考えを広げたりしているか」という質問に肯定的な回答の割合が75.8%で、県・全国よりも少し高い。

＜学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数）＞

- 「算数の勉強は好きか」との質問に肯定的な回答の割合は、69.3%であり、県・全国より高い。「算数の勉強は大切である」と肯定的な回答の割合は96.9%で県・全国と比べて高い。「算数の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答の割合は88.6%で県・全国と比べて高い。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか」の質問に対して、肯定的な回答の割合が86.0%で県・全国と比べて高い。
- 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」の質問に対して肯定的な回答の割合が、96.1%で、県・全国と比べて高い。

生徒質問紙

<基本的生活習慣等>

- 「朝食を毎日食べているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は90.0%であり、県・全国と比べると低い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は74.7%であり、県・全国よりも低い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は91.4%であり、県・全国より少し低い。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は59.4%と県・全国と比べると5ポイント以上低い。

<挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等>

- 「自分には、よいところがあるか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、70.8%であり、県・全国と比べて低い。
- 「将来の夢や目標を持っているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、63.2%であり、県・全国と比べて低い。
- 「人が困っているときには、進んで助けるか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、84.7%で県・全国と比べて低い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、92.4%であり、県・全国と比べて少し低い。

<学習習慣等>

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、54.0%であり、県・全国より低い。
- 月曜日から金曜日に「1日に1時間以上勉強する」と回答した割合が、76.0%であり、全国と比べて高いが、県と比べて低い。
- 月曜日から金曜日に「1日に30分以上読書をする」と回答した割合が、28.7%であり、県・全国とほぼ同じ。「全くしない」と回答した割合は、42.1%であり、県と比べて低い。
- 「新聞を読んでいるか」の質問に対して肯定的な回答の割合は、9.1%であり、県よりも少し高いが、全国と比べると低い。

<ICTを活用した学習状況>

- 「2年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか」という質問に対して「週1回以上」と回答した割合は、32.5%であり、県・全国よりも低い。
- 「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」という質問に対して、肯定的な回答の割合は、98.1%であり、県・全国と比べると高い。

＜地域や社会に関わる活動の状況等＞

- 「今住んでいる地域の行事に参加しているか」の質問に対して肯定的な回答の割合は40.2%であり、県・全国と比べると低い。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」の質問に対して肯定的な回答の割合は38.3%であり、県・全国と比べると低い。

＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況＞

- 「学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えたか」という質問に対して肯定的な回答の割合は、80.9%であり、県・全国と比べて低い。
- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」という質問に対して肯定的な回答の割合は、76.1%であり、県・全国と比べて低い。

＜学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）＞

- 「国語の勉強は好きか」との質問に肯定的な回答の割合は、76.6%であり、県・全国と比べて10ポイント以上高い。「国語の勉強は大切である」と肯定的な回答の割合は92.8%、「国語の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答の割合は85.1%で、どちらも県・全国と比べると高い。
- 「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしているか」の質問に対して肯定的な回答の割合が85.1%で、県・全国と比べると高い。
- 「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたりしているか」という質問に肯定的な回答の割合が74.2%で、県・全国よりも低い。

＜学習に対する興味・関心や授業の理解度等（数学）＞

- 「数学の勉強は好きか」との質問に肯定的な回答の割合は、61.8%であり、県・全国より高い。「数学の勉強は大切である」と肯定的な回答の割合は83.7%で県・全国と比べて低い。「数学の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答の割合は67.9%で県・全国と比べて低い。
- 「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか」の質問に対して、肯定的な回答の割合が71.7%で県・全国と比べて低い。
- 「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」の質問に対して肯定的な回答の割合が、87.5%で、県よりは低いが・全国と比べて高い。

＜学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）＞

- 「英語の勉強は好きか」との質問に肯定的な回答の割合は、54.9%、「英語の勉強は大切だと思うか」の質問に肯定的な回答の割合は、79.4%、「英語の授業はよく分かる」と肯定的な回答の割合は、59.4%といずれも県・全国より低い。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝えあうことができていた」との質問に肯定的な回答の割合は、70.8%であり、県と比べて低いが・全国と比べて高い。

2 杵築市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

「自立した学習者の育成」に向けて

(小学校)

- ・ 学びを実感させたり、主体的な学習につなげたりするための「振り返り」の視点を意識した取組の推進。
- ・ 1 単位時間の授業や単元を通した学習内容について、他者と協働して得た意見を踏まえた振り返りの充実。
- ・ 各自に目標を持たせ、時間や回数、ペース等取り組み方の工夫の推進。
- ・ 発達段階に応じた自主学習の取組の推進。
- ・ 「集会」や「ふるさと発見学習」を設定。めあて・実行・振り返りのサイクルを大切にして知恵を出し合いながらの取組を図る。
- ・ 並行読書等の推進のための書籍の充実。

(中学校)

- ・ 評価の目的を再確認し、指導事項にそった評価を生徒に返す取組の推進。
- ・ 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする場面設定の推進。
- ・ 言語活動ハンドブックを活用し、自分の考えを他者と広げたり、深めたりする場面設定の推進。
- ・ 家庭学習の点検による助言の充実。
- ・ 家庭学習の内容について、個に応じた支援・指導の推進。
- ・ スマホやゲームの約束について家庭で話す場の設定。
- ・ 生徒会活動と連携した読書の推進。

(小・中学校共通)

○児童生徒の学習意欲の向上を図る。

- ・ 学びを実感できる授業づくり。
- ・ 基礎・基本の定着。
- ・ 自分の考えを深めたり、広げたりする話し合い活動の推進。
- ・ 学習で得た知識や技能を活用する、教科横断的な発想と実践。
- ・ ICT を活用した授業づくりの推進。

○読書への興味・関心の向上を図る。

- ・ 授業における学校図書館の活用。

○地域や社会への興味・関心を深める。

- ・ 地域教材や地域人材の活用の推進。

○安心できる学校生活の構築と自尊意識の向上を図る。

- ・ 校内での相談体制の再確認と、SC・SSW等の活用推進。
- ・ 組織的に取組を進めていく校内体制づくりの推進。